

NTTデータの先進的DB on NASソリューションをシンプルかつ運用性に優れたデータ管理基盤で支えるネットアップ

ネットアップは2008年3月、同社の認知度の向上と、世界中の顧客、パートナー、従業員に同社の一貫した企業姿勢を伝えることを目的に新たなブランドイメージを発表。具体的には、正式社名を「NetApp」とし、新たなロゴとして、鮮やかなブルーのゲートウェイを採用した（図1参照）。

これは、データ管理ビジネスにおけるネットアップの確かな歴史と、技術革新と顧客サービスへの取組みを示している。また、未来への入り口、つまり新たな可能性、新たなアイデア、新たな展望への扉でもあり、この先に障壁を乗り越えビジネスの突破口を開く鍵が待っていることを意味している。ここでは、NTTデータとネットアップとのリレーションの歴史とこれまでの実績を紹介するとともに、現在ネットアップが特に注力追求しているシンプルなデータ管理基盤の提供について紹介する。



図1 ネットアップ社の新たなロゴ

4社提携を軸に、Linuxを用いたDB on NASソリューションを本格展開

2003年5月、NTTデータ、NTTデータ先端技術、日本オラクル、およびネットアップの4社は、Linuxを用いたNASとデータベース管理ソフトで構成したシステムに関し、提携事業推進のための「プロジェクト憲章」にサインしたほか、NTTデータ内に、「共同検証センター」を設置した。同センターには、ネットアップや日本オラクルの製品を使用した評価環境を設置し、顧客に対して最適なシステムの検討を、実際の環境に近い環境で行うことが可能となった。昨今のDB on NASの普及は、本提携プロジェクトにて4社が検証を繰り返し、そこで蓄積したノウハウを武器に、ビジネスを展開してきた背景がある。

NTTデータは、DBアプリケーションの分野でもネットワーク接続型ストレージ（NAS）が使われていることに知り、特にTCOというシステムのライフサイクル全般にわたってコストメリットが期待できることに注目し、NASのトップベンダーであるネットアップの製品について、早くからリソースを投入して、



ネットアップ(株)
代表取締役社長
兼 米国本社 日本地域担当副社長
大家 万明氏

検証のために使いこんできた。

ネットアップの大家 万明代表取締役社長は、NTTデータとのこれまでの関係について、次のように語っている。

「NTTデータ様創立20周年誠にありがとうございます。NTTデータ様と私どものおつきあいは古く、DB on NASのメリットを早期にご理解いただき、十分な製品の評価のうえ、ご採用いただきました。NTTデータ様は、新しいもの、テクノロジーに対する取組みがいつも早く、先見の目があると感じておりました。さらに、NTTデータ様は、常に未来を志向し、それを具現化することのできるポジションにあるSIer様であると考えております。また、NTTデータ様は、社会インフラシステム、ミッ

ミッションクリティカルな業務システムや大規模基幹システムなど、我が国を代表する重要なITシステムを構築・運用されてきました。ネットアップは、NAS製品からスタートしたストレージベンダーで、かつてはストレージをローコストで大量に使うような領域が得意分野でした。しかし、現在ではミッションクリティカルなシステムにも採用されています。特に、DB on NASは信頼性とパフォーマンスの高いソリューションとして成熟し、今後の成長分野として考えています。2003年頃から私どもの製品をご活用いただいたNTTデータ様は、NAS製品の優位性を市場にアピールしていただいた先進的かつ重要なパートナーであると考えています。今後も永続的にミッションクリティカルな業務システムへのNAS製品のビジネス展開を支援していきたいと考えています。」

NTTデータの社内基幹システムにDB on NASソリューションを採用

NTTデータでは、同社の社内基幹系システムのあるべき姿を追求し、



Webコンピューティング、データベースシステムをはじめとする標準技術・オープンな製品をベースとした3つの事業を柱とするシステムインテグレーター



社内基幹系システムのあるべき姿を追求した株式会社NTTデータの社内情報システム「INFOGRID」をOracle on NetAppで構築

課題

- 各システム毎に分散するストレージの統合
- 複数のシステムから利用可能な共有ストレージ
- 既にリリース済みのシステムへの影響を最小限に各システムの段階的なリリースを可能にする拡張性

ソリューション

- NetAppクラス構成FASシステム
- NetApp FlexVol仮想化技術
- NetApp Snapshot.SnapRestoreソフトウェア
- NetApp SnapVaultソフトウェア
- Oracle Database 10g Real Application Clusters

利点

- 高い事業継続性の確保
- 異機種混在環境におけるDBおよび業務データの一元管理を実現
- D2Dバックアップを採用した統合バックアップ環境によるデータ保護の強化
- 開発フェーズにおけるテスト環境構築からテスト試行までのリードタイムを短縮し生産性を向上

構築した社内情報システム「INFOGRID」において、Oracle on NetAppを採用した（図2参照）。

NTTデータの社内情報システム「INFOGRID」は、同社の基幹業務システムと基幹ネットワーク、電子決済などを刷新し、加えて、フロント支援系システムを新たに構築して、ビジネスの様々なシーンにおいて、的確な情報を迅速に提供することを目的としてつくられた基幹系情報システムである。「情報（Information）を網の目（grid）のように整備して、ビジネスに必要な情報を末端まで流通させる」ことができるように、現行システムの更改とともに、人事・会計・経営管理・就業管理などのサブシステムの見直しを行った。

そして、NASの導入を決定したNTTデータでは、各ストレージベンダーの製品を検証した結果、次の4点を考慮し、NetAppの製品を選出した。

①導入、運用など、コスト面での優位性がある

②IPネットワークの高速化・高信頼性化により、NASのデメリッ

トが弱まり、メリットが浮上してきた

③異なるOS間でファイル共有が可能

④高い拡張性と容易な管理性がある

さらに、エントリーモデ

ルからハイエンドモデルまで、同一のアーキテクチャを採用し、段階的な導入や方式統合が容易であり、NAS、SAN、iSCSIのすべてを同じオペレーティングシステム（Data ONTAP）で統合し、共存することができることも、ネットアップ製品の特長だ。

Data Utopia（情報活用の理想郷）の実現を追求する

ネットアップは、ネットワークストレージ市場をリードしてきた仮想化技術とソリューションノウハウを活かし、大量の生データをシンプルに扱えるようにすることで、情報の質を高め、付加価値を生み出すシンプルなデータ管理基盤を提供する。

「ネットアップの事業ビジョンは、『Data Utopia（情報活用の理想郷）』の実現に向けたシンプルなデータ管理基盤の提供です。つまり将来性を見据えた優れた拡張性、高い柔軟性とシンプル、簡単な管理性を誇るストレージソリューションの提供です。さらに、仮想化技術とグリッド技術を組み合わせ、あわゆるストレージがシームレスに連携し、自動管理されるシンプルなシステムを追求していきます。ネットアップの製品は本当に筋がいい製品です。」（前出 大家 万明代表取締役社長）

お問い合わせ先

ネットアップ株式会社
マーケティング部

TEL：03-5404-1200

URL：http://www-jp.netapp.com/

図2 NTTデータ先端技術のDB on NASによる基幹系システム構築事例